

■ 除草剤：農業用

MCPソーダ塩

登録番号：7697
 毒性：－
 消防法：－
 有効年限：5年

成分 MCPAナトリウム塩……19.5%
 物理的・化学的性状 茶褐色水溶性液体

包装：1.5kg×10 6kg×3

◆特長

○ ホルモン型の選択性の除草剤で、水稻や麦類の雑草処理剤として、イネ科植物に害はほとんど与えず、主として広葉雑草を枯らしめます。

◆適用と使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量		本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	MCPAを含む農薬の総使用回数
					薬量	希釈水量				
水稻	－	水田一年生雑草 (イネ科を除く) マツバイ ヘラオモダカ ウリカワ オモダカ セリ	有効分けつ 終止期～ 幼穂形成期前 但し収穫 60日前まで	全土壌	200～ 240 g ／10 a	70～ 100 ℓ ／10 a	1回	落水 散布	南関東 以西 (山陰を 除く)	1回
					160～ 200 g ／10 a				南東北 北関東 東山 北陸 山陰	
					160 g ／10 a				北東北	
					125 g ／10 a				北海道	
水稻 (刈取跡)	水稻 刈取跡	マツバイ	稲刈取後 10日以内		1,000 g ／10 a	90～ 110 ℓ ／10 a			関東中南 部以西の 早期又は 早植水稻 刈取跡 (単作地帯)	
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	一年生 及び 多年生 広葉雑草 スギナ	雑草生育期 (草丈30cm以下) 但し収穫 14日前まで		200～ 400 g ／10 a	100 ℓ ／10 a	3回 以内	雑草 茎葉 散布	全域	3回 以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量		本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	MCPAを含む農薬の総使用回数	
					薬量	希釈水量					
とうもろこし	—	一年生及び多年生広葉雑草	2～5葉期	全土壌	200～300g ／10a	70～100ℓ ／10a	1回	雑草茎葉散布	北海道東北北陸	1回	
麦類			(春播麦類) 5葉期 但し収穫 45日前まで			25～100ℓ ／10a			全域		
			(秋播麦類) 幼穂形成期 但し収穫 45日前まで			70～100ℓ ／10a			北海道 全域 (北海道を除く)		
日本芝 西洋芝 (ケンタッキー ブルーグラス)			芝生育期		2g/m ²	200～300ml /m ²					
樹木等	公園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 鉄道等	一年生 及び 多年生 広葉雑草 スギナ	雑草生育期 (草丈30cm 以下)	全土壌	1.5～2g/m ²	400～600g ／10a	70～100ℓ ／10a	3回 以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	全域	3回 以内

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

◆注意事項

- (1)本剤はMCPAを含む農薬であるので、他のMCPAを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用する。
- (2)一般的注意事項
 - 1)立毛中の広葉作物（桑、茶、果樹などを含む）に本剤がかかると薬害を生ずるおそれがあるから散布に際しては、これらの作物に散布液が直接又は飛散してかからないように注意すること。
 - 2)散布直後の降雨は効果を減ずるので降雨前の散布はさけ、天候を見きわめてから散布すること。
 - 3)本剤散布に用いた器具類は使用後できるだけ早く水で十分洗っておき、他の用途に使用する場合薬害の原因にならぬように注意すること。
- (3)水稻の本田雑草防除に使用する場合は、一般的注意事項の他に、次の事項に注意すること。
 - 1)本剤の散布時期は水稻の有効分けつ終止期より幼穂形成期までの間であるので、水稻の生育初期に発生する雑草を抑制することはできない。従って本剤使用に先立って、これらの初期発生雑草を抑制する除草剤を散布するか、または中耕除草を行なうこと。

- 2) マツバイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、オモダカ、セリは本剤の水稻生育中の処理では完全に枯殺することはできないので有効な除草剤と組み合わせて防除すること。
マツバイは、稲刈取後処理で効果的に防除することができる。
- 3) 本剤散布にあたっては、散布 1～2 日前に落水しておき、本剤の使用量を少量の水によく溶かしてから70～100ℓ/10aの水にうすめ、よくかきまぜてから散布機で雑草全面に散布すること。特にアブノメ、カヤツリグサ、マツバイなどの雑草は薬剤が付着しにくいので、十分雑草にかかるよう丁寧に散布すること。散布後 2～3 日間は落水のままとし、湛水しない。また、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしないこと。
- 4) 本剤の散布に当たってはなるべく株間に均一に散布するようにし稲体の上から散布しないよう注意すること。
- 5) 直播栽培の場合も有効分けつ終止期から幼穂形成始期直前までに移植栽培と同様の方法で散布する。
- (4) 水稻刈取跡地におけるマツバイ防除に使用する場合は、一般的注意事項の他に、次の事項に注意すること。
 - 1) 除草効果は、高温、晴天時程高いので、日中の気温が20℃以上の天気の良い日を選んで散布すること。
 - 2) 稲刈取直後のマツバイの生育の旺盛な時に処理すると除草効果が高いので稲刈取後できるだけ早く散布すること。
- (5) とうもろこしに使用する場合は、一般的注意事項の他に、次の事項に注意すること。
 - 1) 高温条件下では薬害が発生しやすいので、異常高温下での散布はさけること。
 - 2) スーパースイート系には薬害を生じる場合があるので使用はさけること。
- (6) 麦類の少水量散布（25～50ℓ/10a）には専用ノズルを使用すること。
- (7) 芝に使用する場合は、一般的注意事項の他に、次の事項に注意すること。
 - 1) 萌芽期および生育初期の芝は抵抗力が余り強くないので、完全に生え揃った後に散布すること。なお、枯殺力は高温になるほど強くなるので7月頃では散布前に芝刈りを行なって雑草の生育をおさえた後散布するとさらに有効である。
 - 2) 散布の際、芝の中や付近にある草花や花木などに薬液がかからないようその付近での散布はさけること。
 - 3) 散布後、芝が若干黄変することがあるが、1～2週間後には回復する。
- (8) 公園、堤とう等で使用する場合は、一般的注意事項の他に、次の事項に注意すること。
 - 1) セイタカアワダチソウ、イタドリ等大型多年生広葉雑草を対象としない場面で使用すること。
 - 2) 水源池、養殖池等に本剤が飛散流入しないよう十分に注意すること。
 - 3) 散布器具・容器の洗浄水は、河川等に流さず、空容器・空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (10) 取扱及び保管上の注意、漏出時の措置、廃棄上の注意、輸送上の注意、火災時の措置については、11ページ、12ページを参照すること。

◆安全使用上の注意

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。

- (2)原液は眼に対して刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3)原液は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4)散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
また、薬液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする事。
- (5)公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (6)使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

◆魚毒性

この登録に係る使用方法では該当がない。